

ロボット関連技術PRカード

1. 企業概要

会 社 名	マジックディスプレイテクノロジー ジャパン株式会社			代表者名	堀部 太一		
				窓口担当	堀部 太一		
事業内容	裸眼 3D 技術及び映像変換 AI			U R L	https://mdisplay-tech.com/		
主要製品	裸眼 3D ディスプレイの各種モニター、2D 映像の 3D 変換 AI システム、 2D 変換 3D 画像プリンター						
所在地	〒104-0061 東京都中央区銀座三丁目14-17						
電話／FAX 番号	03-6260-4822／-			E-mail	info@mdisplay-tech.com		
資本金(百万円)	10	設立年月	2020 年 12 月	売上(百万円)	10	従業員数	4

2. PR事項

『 3D と AI を融合させ企業・自治体のマネタイズを最大化 』

- ① 裸眼 3D ディスプレイ
VR や 3D メガネが必要なく、“裸眼で”3D 映像が視聴可能。3D による飛び出す効果や奥行きで、主に企業の広告や自治体の事業 PR など、事業の収益化や企業の差別化に特化した新しい映像技術。
- ② 3D 映像変換 AI 技術
3D 変換 AI により、どんな映像/画像でも 3D へ変換し立体での視聴が可能。特殊な機材や CG が
必要なく、誰でも簡単に 3D 技術を使いこなす事ができる。
- ③ 2D 変換 3D 画像プリンター
スマホから送信した 2D 画像をその場で 3D に変換し立体画像として印刷できる、新しい 3D プリンター。



【課題1】企業が進めるデジタルサイネージでの 2D 広告は、視認性が低く広告効果が出にくい。

【課題2】自治体が進める観光業や DX 推進は、目立たず市民へのインパクトと可視化が求められる。

➤➤➤裸眼で 3D にする事により飛び出す広告や

観光 PR や特産品推奨で効果は一目瞭然、

自治体の DX 推進やデジタル化の実感

も湧きやすい。

裸眼3D技術の応用領域

・サイネージ広告	(屋内外・タクシー・エレベータ)
・自治体プロジェクト	(地方自治体観光PR・DXサイネージ・災害教育)
・イベント活性化	(テーマパーク・展示会)
・医療・介護	(3D医療・ヘッドアップサージェリー)
・教育	(デジタル教科書・教育実習)
・モビリティ	(自動車・電気製品・シミュレーター)
・ロボティクス	(医療用ロボット・工業用ロボット)
・eスポーツ	(アーケードゲーム・バブルスクリーン)
・BtoC市場	(家電製品・ガジェット・スマホ)
・地方創生	(六次産業振興・地域活性化)
・街づくり	(不動産・公共公益事業)

- 裸眼 3D 技術及び 3D 映像変換 AI 技術は、商業サイネージでの収益拡大や差別化だけではなく、
ロボット・車産業・デジタル教育・医療・宇宙事業など広い分野で応用が期待されています。

3. 特記事項（得意技術以外に PR したい事項 例：特許情報、応用分野、表彰・認定）

国立研究所への導入実績あり。

ハードウェアは特許取得済み、AI ソフトウェアは完全自社開発で秘匿技術のため特許出願無し。